

児童発達支援センター

くるみ園

令和6年度

発達支援 計画

そだち

社会福祉法人 福角会

多機能型事業所

くるみ園

愛媛県松山市福角町1285-1

TEL (089) 979-5026

FAX (089) 979-5027

メール kurumien@poem.ocn.ne.jp

令和6年4月1日作成

社会福祉法人 福角会 法人理念

社会福祉法人福角会は「この子らを世の光に」の心を心として、全ての人たちが地域の中で安全で安心して暮らせる豊かな生活の実現を目指します。

豊かな育ちと生き抜く力を支援します

家庭、地域のことを考えながら子ども達の育ちを支援します

発達支援（そだち）

クラス活動・グループ活動
個別支援・合同保育・合同遊戯
季節を通しての行事
コミュニケーション能力を高め生活、あそびの中で力を発揮できるように支援します

家庭（子育て）

母子プレー・個別支援計画
参観日、懇談会、おもちゃづくり
父母の会研修

地域（つながり） 地域移行支援

随時発達相談
療育等支援事業
保育所等訪問支援事業
交流流行事

発達支援計画

1 目的

児童発達支援センターくるみ園は、地域の中核的な児童発達支援センターとして、個別・集団活動及び相談を通じて、発達支援の連続性、継続性が重要であることを重視し、関係者の理解を得ながら子どもの生き抜く力を支援する。併せて、地域支援（療育等支援事業や保育所等訪問支援事業）を展開し、個別支援計画を基本としながら、発達に「困り感」を抱える全ての子どもたちが集団生活に適應する力を育てる。これらの取り組みを通して、地域の子どもの福祉の増進に寄与する。

発達支援にあたっては、下記の4点を基本としている。

- (1) 一人一人の子どもの発達をとらえ、個々に応じた支援を提供する。
- (2) 子どもが、将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるようにするためにも、心身の健康や生活に関する領域「健康・生活」、運動や感覚に関する領域「運動・感覚」、認知と行動に関する領域「認知・行動」、言語・コミュニケーションの獲得に関する領域「言語・コミュニケーション」、人との関りに関する領域「人間関係・社会性」の5領域を基盤とした保育を行うことを基本とする。
- (3) 「保育園併設」を活かし、子どもの「そだつ力」を高める。また、子どもの発達状況や家族の意向を丁寧にアセスメントし、地域において保育・教育が受けられるように保育所等へ支援を行う「後方支援」を行いながらインクルーシブに向けた基礎作りをする。
- (4) 子どもの発達に関する全てを対象として発達相談を行う。

2 発達支援方針

(1) 発達支援

一人一人の発達や状態を把握して、個別支援計画を作成する。これを基に、定期的に見直しをしながら実践し、その子どもに適した将来の環境（保育園、幼稚園、学校を含む）も考慮しながら支援を行う。

(2) 共に育ちあう

保育園児とのあそびや放課後等デイサービスみらいとの交流などを通して、子どもの成長・発達を支援する。

また、保護者と職員とが一緒に子育てを考え協力し、共に育ちあうという姿勢をもって子どもの発達につなげる。

(3) 発達支援の柱としていること

発達支援を必要とする子どもに対して、『感覚運動あそび』『インリアルアプローチ』『感覚と運動の高次化理論』を中心に支援を実施する。

3 営業時間

午前 8 時 20 分～午後 5 時 20 分

サービス提供時間

午前 10 時 00 分～午後 3 時 00 分

水曜日及び土曜日について

午前 10 時 00 分～午後 1 時 30 分

4 送迎方法

通園バスが利用できます

5 努 力 目 標

(1) 子ども達が生まれもつ「生きる力」を信じ、その力を引きだしていく環境の設定と支援システムを

構築していく。

(2) 発達検査などを通して、子ども達の能力をさまざまな角度から捉え、個々にあった支援の実施につなげる。「津守・稲毛式乳幼児発達検査」「新版 K 式発達検査」等の検査を実施する。

(3) 環境を整備すると共に、教材教具を工夫開発して支援効果を高めていく。

(4) 専門家としての支援を展開するために、園内研修を年間計画に基づいて行いスキルアップを図る。

(5) 家庭と連絡を取り合い、共に子どもの正しい理解と認識を深め一貫性のある支援を行う。必要、希望に応じて親子通園、家庭訪問を随時行う。

(6) 職員が講師となり、保護者対象の学習会を実施して側面的に家庭を支援する。

(7) 関係機関（保育園、幼稚園、特別支援学校、小学校、医療機関など）との連絡・情報の交換を行い、地域社会につなげる。

(8) 安全に対する学習と体験の機会を整備します。定期的に交通安全教室、避難訓練、交通避難訓練、救命救急講座などを実施して、生命、安全の確保に備える体制を検証していく。

(9) 利用者の個人情報の保護と開示を行う。

外部流出には細心の注意を払い、特にパソコンのデータ管理には万全を期す。

(10) 父母の会（保護者）と協力し合い、将来を見通した子育てを考える機会となるように進める。

5 重点支援項目

(1) 保育を基盤とした発達支援の実践

発達支援は子どもの生活の部分を支援することが重要と提起されている。特定の支援プログラムに特化することなく、5領域「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」を基盤とした発達支援を実践する為に、子どもを楽しませることのできる保育スキルを身に着ける努力をする。その為に、内部研修の充実を図る。

令和6年度 内部研修計画

時期	研修名
4月	個別支援計画研修（スキルアップ研修） 感染症対策研修、身体拘束研修 児童発達支援センターの役割について（スキルアップ研修） クラス・グループの話し合い（チームワーク研修）
5月	クラスビデオ研修（スキルアップ研修） クラス・グループの話し合い（チームワーク研修）
6月	グループビデオ研修（スキルアップ研修） クラス・グループの話し合い（チームワーク研修） 虐待防止研修
7月	グループビデオ研修（スキルアップ研修） 移行会議（インクルージョン研修）
8月	学期のまとめ （教材づくり、合同保育、合同遊戯、教材づくり）
9月	クラス前期まとめ（スキルアップ研修） グループ前期まとめ（スキルアップ研修） クラス・グループ話し合い（チームワーク研修）
10月	クラス・グループ話し合い（チームワーク研修） 虐待防止研修
11月	個別ビデオ研修（スキルアップ研修） クラス・グループ話し合い（チームワーク研修）
12月	クラス・グループ話し合い（チームワーク研修）
1月	クラスビデオ研修（スキルアップ研修） クラス・グループ話し合い（チームワーク研修）
2月	クラスビデオ研修（スキルアップ研修） クラス・グループ話し合い（チームワーク研修）
3月	クラス後期まとめ（スキルアップ研修） グループ後期まとめ（スキルアップ研修） 学期のまとめ（スキルアップ研修） （教材づくり、合同保育、合同遊戯、教材づくり）

※ BCP 計画（感染症及び非常災害時）演習及び研修は年2回開催
身体拘束見直しに関しては3か月に1回の見直し

(2) 子どもの意志表明を尊重した保育を行う（本人支援）

どんなに重い障害があっても、自分でしたいことを自分で決めたり選んだりすることは可能である。自分の意見を述べることは難しくても、選ぶことは小さい頃からの積み重ねにより身に付けることが出来る。まずはコミュニケーションスキルを身に付け子どもを信じ、子どもの主体性を大切にしたり分かりやすい見通しを持った活動を組んでいくことが、児童発達支援には求められている。

- ① 様々な経験を積むこと（経験しないことは分からないし決められない）。
- ② あらゆる場面で「選ぶ」機会が保障されていること（「選ぶ」経験が「決める」ことにつながる）。

③ 意見を自由に言え、間違っても否定されずに聴いてもらえること（「意思表明権」）。「意思決定」のベースを作るには、幼少期からこれらのことが生活や遊びの中で意図して取り込まなければならない。大人になって、自分の意思の下生活が送れるようになるためにも、日々の発達支援の現場で行われる保育の視点によるあそびを通し、「自分で決めて、自分で選ぶ力」に結びつく発達支援を実践したい。

個々の発達像に合わせたオーダーメイドの発達支援を提供する。児童支援利用計画書を受け、子ども本人と保護者の思いを汲み取り、子どもの様子を観察した上で、個別支援計画を作成し、PDCAのサイクルに則り支援を重ねる。

(3) 家族支援について

児童発達支援における家族支援は、保護者の就労保障や家庭養育の補完を目的として行われるものではない。本来の目的は、子どもが最大限に成長・発達できるようその基盤となる家庭生活や親子関係を支援するものであり、子どもを中心に置いた家族支援であることを理解しなければならない。保護者が子どものことを心から愛おしいと思え、様々な発達課題をエンパワメントの視点を持って支援することが大切である。くるみ園では子育ての主人公は「保護者である」ということを基盤としながら、「子どもの最善の利益」に繋がるように導く為に、事業所内相談支援に力を注ぐ。

(4) 中核的機能の拠点を目指す

児童発達支援センターの中核機能

- ① 幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援の機能
- ② 地域の障害児通所支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能
- ③ 地域のインクルージョン推進の機能
- ④ 地域の発達支援に関する入り口としての相談機能

4つの中核機能すべてを十分に備えるセンターとして、地域から求められる児童発達支援センターを目指す。そのためには、療育等支援事業及び保育所等訪問支援事業を介

した地域への後方支援の機能をより一層強化する。また、障害の発見段階の子ども及び保護者に対する相談支援機能を強化すべく、障害児相談支援が、発見の段階から丁寧な発達相談が担えるよう、入り口の相談支援の強化を行う。また、令和6年度松山市に設置される子ども家庭センターとの連携強化を図るべく、子ども家庭センターの取り組みにも惜しみなく協力する。

6 職員信条

思いやり、相互理解、協力

発達支援（そだち）

7 発達支援目標

- (1) 保育を基盤とした発達支援の展開により、他者とのコミュニケーションスキルを高める。
- (2) 見る、触る、嗅ぐ、食べる、聞く、動く、幼児期だからこそ、様々な感覚を取り込みながら、自我を育てる。
- (3) 障害児相談支援事業所が作成する児童支援利用計画を、個別支援計画に反映させ、個々の発達過程に合わせた支援を実施する。
- (4) 人を頼り、信じる力を育てる。

※ 発達支援の内容については別紙参照

家庭（子育て）

8 母子プレー（家族支援）

月に1回、保護者と子ども、担当職員で実施する。実施時間は1コマ50分。子どもの発達過程に合わせた取り組みを、ポータティブプログラムを軸にしながら課題設定をし、あそびを通した中で取り組む。親と子の絆を深め、子育てにおける互いのコミュニケーションスキルを高めていく為の、くるみ園における発達支援の大きな柱としている。くるみ園職員は、保護者の方々の子育てにおけるよきパートナーでもあり、伴走者でもあるという姿勢を大切にする。

9 親子行事・兄弟支援

親子行事に参加することは、親子関係を確立する機会となる。また、他の子どもとも関わり、様子を見ていく中で、共に育ちを喜び合える場となるように、行事を計画していく。また、父親や兄弟を対象とした行事も考えながら、家族で子育てへの参加を考える機会も設ける。

地域（つながり）

10 発達相談

社会福祉法人福角会は、平成10年10月より国の地域療育等支援事業を受けて、その中の在宅支援外来療育等指導事業（以下外来）、施設支援一般指導事業（以下施設支援）、巡回相談のいわゆる「療育3事業」について、くるみ園が実施してきた。

外来については、在宅のお子さんや、幼稚園・保育園を利用している子ども達を対象に、子ども達1人1人の特性を受け止めながらの支援を大切にし、人との関係作りの基礎となる取り組みに重きをおいて実践していく。また、子どもの将来のことや、発達のことで不安を抱える保護者の方々の立場に立ちながら、個別支援計画を共に立案し、将来を見通した支援につながるよう計画を立てる。作成した個別支援計画は、通っている幼稚園・保育園の先生とも共有し、子ども達が通う園の中においても、一貫性のある支援が継続できるよう活用する。

施設支援では、保育園や幼稚園等の障害児保育のスキルを高めていくことを目標と

して、実際に保育現場を観察しながら子どもたちの特性理解を促し、又テーマに沿った各種研修会を開催し、職員の発達支援技術の向上を図る。

巡回相談については、在宅の重症心身障害児への発達支援を提供したり、通園する保育園や幼稚園等へ訪問しながら、活動する現場で相談対応を行う。

1.1 保育所等訪問支援

地域の幼稚園や保育所、学校等に通う、発達上「困り感」を抱える子どもに対し、訪問支援員を派遣して子どもが集団生活へ適応する力を育てるための、専門的な支援を行う。相談支援事業所を介して松山市へ受給者証の申請が必要になるサービスである。

1.2 交流保育

子ども達は、早期発達支援に加え、子ども同士の関係性の中で豊かに育っていく。その中で、喜びを持ち、他者とのかかわりの中で楽しみを見つけ、集団の中での自分を確立していく。従ってくるみ園では、交流保育・合同保育（同一法人福角保育園）・合同遊戯（同一法人福角保育園）・小学生との交流会、地域との交流を積極的に行う。

1.3 地域活動

地域との交流や、交通安全、買い物、交通手段の利用の経験は将来の地域活動につながる幼児期における活動として捉え、家庭と連携して年間計画の中で位置付ける。

1.4 おもちゃの図書館

昭和59年、愛媛共同募金会の助成を受けて、くるみ園内におもちゃの図書館を開設する。おもちゃの図書館は、「障害を持つ子どもたちに、おもちゃの持つ素晴らしさと遊びの楽しさを」との願いから始まり、現在では「障害を持つ子も持たない子も、共に仲良く、そしてあそびを豊かに」と活動している全国組織の団体である。

園内には、約250点の各種おもちゃがあり、地域の在宅障害児家庭への貸し出しやあそびの場の提供・園児との交流・ボランティアの養成などの活動を行っている。おもちゃは、くるみ園父母の会の手作りおもちゃをはじめ、運動発達を促すおもちゃ、目と手の協応をねらいとしたおもちゃ、認知力（探索と操作）を高めるおもちゃ等を用意している。

開所曜日： 毎週水曜日

利用時間帯： 11:30～12:30

注意事項： 飲食不可

日々の日課

時 間	生活の流れ	職 員 の 動 き	
8:20 8:25	朝礼 職員打ち合わせ バス 出発	園児出欠の確認 バス添乗保育士確認 バス内安全留意確認 清掃 準備 早着児の受け入れ 外来利用児受け入れ	
10:00 :10	バス 帰園 生活	園庭走 健康観察 家庭よりの連絡事項の確認 排泄 着脱	
10:40 11:30 :35	クラス活動 個別支援 お片付け 給食準備	クラス活動計画案に基づく 個別支援計画に基づいて 排泄（必要な子ども）	
11:40 12:20 13:10	給食 生活 自由あそび お片づけ	手洗い 配膳 食事 投薬 歯磨き 食事の後片付け 手洗い・排泄	水・土曜日の流れ 13:00 お片づけ 13:10 生活
13:20 14:10	グループ活動	グループ活動計画に基づく 個別支援計画案に基づいて	13:30 バス 出発 14:00 外来①
14:20	おやつ 生活	手洗い 健康観察 排泄 着脱 園児確認 家庭への連絡事項の確認	大掃除など
15:00 16:00	バス 出発 休憩	バス保育士添乗 清掃 外来利用児受け入れ (月曜日はグループのみ) 準備 記録	15:00 バス 帰園 外来② クラスの話 グループの話 記録整理等
16:45	バス 帰園		16:00 休憩 園内研修 職員会など
16:50 17:20	終礼 研究 終業	報告・反省 明日の行事予定の協議 教材研究 ケース研究	16:50 終礼 17:20 終業

* 隔週火曜日の午後は伊予スイミングにてスイミングを実施

* 毎週金曜日は集団活動と個別支援を実施

りす組

担当 中山保育士・石丸児童指導員・大西保育士

目指す子どもの姿

初めての集団参加の中で大人との信頼関係を築き、様々な状況を受け入れられるようになる。また、大人と一緒に楽しい経験を重ねる中で人や物への関心が広がる。他者と一緒に活動する楽しさを知り、場面や人に合わせられるようになる。園と家庭で情報共有を丁寧に行い、家庭生活の充実を図る。

(健康・生活)・子どもたちが心身共に落ち着いた生活が過ごせるような環境を作り、家庭と園で連携を図りながら、生活リズム(食事・排泄・睡眠)を整える。また、身の回りのことを大人に手伝ってもらいつつ“できた”という経験を積み重ねていく中で、自分でしようとする意欲が高まり、分かりやすい環境と個々に応じた支援のもとで生活の流れを身につけ、自分でできることを増やしていく。

(運動・感覚)・様々な感覚運動あそびを通して体力の向上を図るとともに、身体イメージやバランス力を高めたり、上手な身体の動かし方を身に付けたりしていく。その中で、日常生活動作がスムーズに行えるようになる。また、自然や身近な物に興味関心を持ち、感受性を育むことで日常生活が豊かになる。

(認知・行動)・個々の特性に配慮し、視覚、聴覚、触覚等の感覚を活用して、必要な情報を示して認知機能への発達を促す。好きなあそびの中で、様々な概念理解を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように育てていく。また、大人が見本、媒介となることで活動の幅が広がる。

(言語・コミュニケーション)・大人と共感しながらあそびを繰り返し、場面設定することで要求や意思表示が増える。また、個々に応じてジェスチャー、発声、発語等の伝達手段を拡げることでコミュニケーション能力が高まる。生活の中で周りを見たり、人を待ったり、話を聞いたりすることで、自分の気持ちをコントロールしたり、相手に合わせたりする力を育む。

(人間関係・社会性)・日々の活動を通して興味や関心の世界が広がり、遊びや人との関わりを楽しむ。また、大人の子どもへの反応的関わりを大切にしながら、伝わりやすい言葉や気持ちの代弁を意識することで、他者に気持ちや意思を伝えたいという意欲を育む。遊びの中で大人との信頼関係を築き、様々な状況を受け入れられるようになる。

氏名	性別	生年月日	CA	備考
	男	R2.6.9	3:9	
	男	R2.6.19	3:9	
	男	R2.7.4	3:8	
	男	R2.7.26	3:8	
	男	R2.9.5	3:6	
	女	R2.9.8	3:6	
	男	R2.11.15	3:4	
	女	R3.2.6	3:1	
	男	R3.3.6	3:0	

うさぎ組

担当 山西保育士・上田保育士・石田保育士

目指す子どもの姿

子どもたちの安心できる環境を用意し、くるみ園での生活や人との関わりが楽しくなる。また、大人やお友だちと一緒に過ごすことで、得られる感情「たのしい」「おもしろい」「やってみたい」等の場면을たくさん設け経験する。そして、様々な遊びや行事を通して、自分でしたいことを決めたり、選択する場面を多く設け、子どもたちの個性を育む。

(健康・生活) 毎日元気に登園しながら、生活リズムを整えていく。身辺面では、環境の整備を図りながら、個々に合わせた支援をおこない、毎日の繰り返しの中で自分でやろうとする意欲が高まる。

(運動・感覚) 四季折々(水遊び、泥遊び等)の保育環境を設定し、楽しみながら様々な運動あそびを経験する。そして、散歩や園庭あそび、粗大運動あそびを通して動きのコントロールができるようになる。また、四季折々を意識した製作活動を通して、子どもが感性を育む。また、手先の器用性にも繋がることで、日常生活動作においてスムーズに行えることが増える。

(認知・行動) 個々の発達段階に合わせ、「見る」「聞く」「触る」等のさまざまな遊びを通して、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。また生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことを自分なりに表現できるようになる。

(言語・コミュニケーション)

四季折々のさまざまな活動を経験することで、「楽しいな」「面白いな」「もっと遊びたいな」等の気持ちが芽生える。そして、共感しながら遊びを繰り返すことで、大人やお友だちとの関わりが楽しくなる。また、大人は子どもの気持ちを汲み取り、代弁したり言葉を添えたりすることで、コミュニケーション意欲を育み、やりとりとしての言葉が広がる。

(人間関係・社会性)

大人との一対一のやりとりや遊びから、他者に対する関心を育て、大人やお友だちとの関わりが楽しめるようになる。また、大人が媒介となりながら個々に応じたコミュニケーション手段を獲得し、他者への思いを伝えようとする意欲が高まる。

氏名	性別	生年月日	生活年齢	備考
	女	令和元年 5月16日	4:11	
	男	令和元年 5月21日	4:11	
	男	令和元年 6月24日	4:09	
	女	令和元年11月 5日	4:04	
	女	令和元年11月17日	4:04	
	女	令和2年 1月13日	4:02	
	男	令和2年 5月16日	3:11	
	男	令和2年 8月12日	3:07	
	男	令和3年 1月14日	3:02	
	男	令和3年 2月 7日	3:01	

(年齢は令和6年4月2日現在)

こじか組

担当 大中保育士・山田保育士・福羅保育士

目指す子どもの姿

大人やお友だちとの遊びを通して、人と関わることを受け入れ、楽しい経験をたくさんする。また、それぞれの形で自分の思いを表現できる子、思いやりのある子を目指し、大人を頼りながら、自分に自信を持って挑戦する力を身に付けていく。

就学に向けては、それぞれの発達を捉えて保護者と話し合いを行っていく。保護者が主体的に子どもの就学先を決めることが出来るよう支援する。

(健康・生活)

分かりやすい環境と個々に応じた生活習慣を身につけ、活動準備などを自ら行うことが出来る。また、就学に向けてお友だちと譲り合いながら、協力して身の回りのことをしたりお手伝いをする事が出来るようになる。

(運動・感覚)

様々な粗大運動遊びを通してバランス力や身体の動かし方を身につけたり、道具を使った遊びの中で手先の使い方が上手になる。また、「みる」「きく」「ふれる」など様々な感覚において、得意な分野を個々に自信をもって取り組めるようになる。

(認知・行動)

あそびの中で様々な概念理解を図ることで、自分で分かって行動することが増える。また、必要な情報を示すことで認知機能への発達を促進する。

(言語・コミュニケーション)

それぞれの形で自分の思いが表現できるよう、大人が媒介となり、気持ちを代弁しながら人との関わりを深めていく。また、家庭でも一緒に好きな遊びを積み重ねることで、本児からの意思表示や要求が分かり、子育ての手掛かりを増やしていく。

(人間関係・社会性)

遊びの中で大人との信頼関係を築き、お友だちと一緒に遊ぶ楽しみを深めていく。また、遊びの中で自ら選択する場面を持ち、お友だちと協力したり、時に競い合いながら気持ちのコントロールが出来るようになる。

氏名	性別	生年月日	CA	備考
	男	H30.5.6	5:10	
	男	H30.7.26	5:03	
	男	H30.8.7	5:07	
	男	H30.8.14	5:02	
	男	H30.8.20	5:07	
	男	H30.9.16	5:06	
	男	H30.12.8	5:03	
	男	H30.3.28	5:00	
	男	R1.9.11	4:06	
	男	R1.10.8	4:05	

きりん組

担当 上甲児童指導員・渡部児童指導員・古川保育士

目指す子どもの姿

大人や他児とのあそびや関わりを通して、「楽しい」「もっとしたい」「伝えたい」という人や活動に対する意欲を育てる。また、活動の中での成功体験を重ねることで、自己肯定感を高め、自信を持って行動することができるようになる。また、年長児においては、「く

るみ園のモデル」となるよう、人の役に立つ活動（お世話をする、係活動をする等）に意欲的に取り組もうという気持ちを育む。

保護者と共に将来のイメージを持ちながら、個々の発達課題に適した支援を行うことで、安心、期待をして次のステージに繋がられるようにする。

- （健康・生活）個々に応じた目標を達成していく中で、自立や自信に繋がり、自ら考えて行動するようになる。また、大人と一緒に整理整頓や身だしなみ等にも意識が向けられるようになり、生活面において細やかな配慮が行えるようになる。
- （運動・感覚）様々な運動あそびや散歩を通して、基礎体力・運動能力の向上を図る。また、制作活動や道具を使ったあそびに取り組む中で、手先の巧緻性を高め道具を目的的に使用できるようになる。
- （認知・行動）分かりやすい環境を設定したり、個々に合った手立てを用いることで、指示や状況を理解し、落ち着いて行動することができるようになる。また、あそびや園外活動等の中で、ふさわしい行動を伝えることで、場に合った行動ができるようになる。
- （言語・コミュニケーション）個々に応じたコミュニケーション手段を活用することで、意志の伝達を行うことができるようになる。他者とのやり取りを楽しむ中で、相手の意図を理解して、やさしく関わろうとする感情を育む。
- （人間関係・社会性）集団活動を通して、他者との関わりを楽しんだり、模倣したりする気持ちが高まる。また、その中で他者理解が進み、相手に合わせた行動ができるようになる。

氏名	性別	生年月日	CA	備考
	男	H30. 4. 17	5:11	
	女	H30. 6. 8	5:09	
	男	H30. 6. 11	5:09	
	男	H30. 9. 12	5:06	
	男	H30. 9. 27	5:06	
	男	H30. 10. 26	5:05	
	男	H30. 11. 12	5:04	
	女	H31. 1. 11	5:02	
	男	R1. 5. 16	4:10	
	男	R1. 7. 11	4:08	

運動ペンギングループ

担当：渡部児童指導員、山田保育士、園田保育士

目指す子どもの姿

粗大運動遊びに取り組む中で全身の筋緊張が高まり、体幹が安定したり、四肢の使い方がスムーズになる。また、遊びを通して体の使い方が上手になることで、生活面でも食事の

際の道具の使い方や着脱の際の体の動かし方が上手になる等、日常生活動作がスムーズに行えるようになる。様々な感触遊びを通して、受け入れられる触感覚が増え触感覚受容が進む。

各々の発達段階に応じて自分の体を自分の意図通りに動かせる感覚を味わうことで、「体を動かすことが楽しい」「もっと動きたい」という気持ちを引き出し、自己肯定感を高めたり、様々な活動に意欲的にチャレンジする気持ちを引き出す。

(健康・生活)

運動遊びを通して健康な体を作り、毎日楽しく園に通う。また、粗大運動遊びや腕や手首を使った遊びを通して食事の際の道具の使い方や着脱の際の動きがスムーズになる

(運動・感覚)

感覚運動遊びを通して踏ん張る、またぐ、押す、叩く、ひねる等の動きを経験することで、楽しみながら体の上手な使い方を知る。

(認知・行動)

箱倒しやプットイン等の目的的运动遊びを通して、簡単な目的を理解して人と繰り返し遊ぶことが出来るようになる。

(言語・コミュニケーション)

シーツブランコやスキンシップなどの遊びを通して大人と関わる楽しさを知り、身振りや視線で<もう一回><して>と要求することが出来るようになる。

(人間関係・社会性)

大人とじっくりスキンシップ遊びや運動遊びを楽しむ中で、大人に頼ったり要求したりする等、表現力を身に付ける。

カリキュラム

	項目	あそび	場所
月	感覚運動遊び	揺れ遊具、サーキット、平均台、マットの山	プレイルーム
火	感触遊び	小麦粉粘土、新聞紙あそび、泥あそび	りす
木	粗大運動遊び	サーキット、スクーターボード、シーツぶらんこ	こじか
金	目的的运动遊び	箱倒し、プットイン、ボール遊び、ハンマー遊び	ホール

メンバー

令和6年4月2日現在

氏名	性別	CA
	女	4:4
	男	3:9
	男	3:8
	男	3:8
	女	3:6
	男	3:4
	女	3:1

時間	内容
13:20	あつまり 絵本、感触遊び、スキンシップ遊び 手遊び、ロディ、
13:25	カリキュラムによるあそび
14:10	あつまり

遊戯イルカ

担当 中山保育士・福羅保育士・古川保育士

目指す子どもの姿

保育環境を分かりやすく設定し、自発的に活動に取り組む。あそびの中で他者との関わりを楽しみながら動きのコントロールを身に着ける。様々な活動を通して、家庭での生活が豊かになる。

1. 健康・生活)・活動の中で様々な遊びが経験できるように安全に配慮し、環境を整える。また、手順表やイラスト等を用いた視覚的な手立てや、絵本や歌遊び等の聴覚的な手立てを示すことで、主体的に動ける場面が増える。
2. 運動・感覚)・感覚運動あそびを通して、ボディイメージ、バランス力を育む。また、遊びの中に、慎重な動き取り入れることで、徐々に動きをコントロールして、物の動きや人に合わせる力が育つ。
3. 認知・行動)・始点と終点が分かりやすい設定を用意することで、目的や操作が理解でき、主体的に動く。その中で、大人と共感しながらあそ繰り返す場面が増える。その中で大人と共感しながらあそびを繰り返す。
4. 言語・コミュニケーション)・スキンシップあそび等の大人と一緒に楽しくあそぶ経験を重ねる。また、あそびの中で大人に手伝ってもらう場面を設定することで、大人を頼る力や、個々に合わせたコミュニケーション手段で意思を伝える力を育む。
5. 人間関係・社会性)・興味の持てるあそびやリズムあそび等を通して、他者の動きに注目し、模倣をする力を引き出す。また、集団で遊ぶことを楽しみ、人からの関わりや促しを受け入れられる場面が増えていく。

カリキュラム

	項目	あそび	場所
月	感覚運動・目的のあるあそび	目的運動あそび・散歩・園庭等	ホール
火	感覚運動あそび・園外活動	揺れ・サーキット等	プレイルーム
木	感触あそび	ふれあい遊び・粘土等	りす
金	微細運動・音楽あそび	製作・リズム	りす

メンバー

年齢 令和6年4月2日現在

氏名	性別	CA
	男	5 : 9
	男	5 : 7
	男	5 : 0
	男	4 : 8
	女	4 : 2
	男	3 : 7
	男	3 : 6
	男	3 : 3

時間	内容
13:20	あつまり パネルシアター、手遊び、歌等
13:30	カリキュラムによるあそび
14:00	片付け 絵本
14:10	あつまり あいさつ

遊戯 アシカグループ

担当 山西保育士・大西保育士・石田保育士

目指す子どもの姿

感覚運動遊びを通して、動きをコントロールする力が高まり、他者に合わせた動きやコミュニケーションを身に付ける。他者とのやりとりをする場面の中で、大人がモデルを示しながら、人とのやりとりの楽しさを拡げる。

集団あそびにおいて、活動の始めから終わりまで、皆と一緒に活動できた経験を通し、集団で遊ぶことの楽しさが分かる。

(健康・生活)

毎日元気に登園する。日々の繰り返しの中で、自分でやろうとする意欲が高まる。また、大人が手伝いながら「できた」という経験を重ね、自信と意欲に繋げていく。

(運動・感覚)

感覚運動あそび（サーキット、揺れあそび）等を通して、さまざまな身体の動かし方を知る。身体を動かしながら遊ぶことの楽しさを知り「できた」という成功体験を重ね、自己肯定感を育む。また、巧緻性の課題や製作活動を通して手先の操作性が高まり、日常生活動作に繋がっていく（道具の使用、ボタンの留め外し等）。

(認知・行動)

始点と終点の分かりやすい設定を用意することで、目的や操作ができ、自ら分かって動く。その中で、大人と共感しながら、あそびを繰り返す場面が増える。

(言語・コミュニケーション)

個々に適したコミュニケーション手段を身に付け、他者とのやり取りに活用できるようになる。また、あそびの中で、楽しさを共有する経験を重ね、人との関わりがより楽しいものとなる。

(人間関係・社会性)

さまざまな遊びを通して、好きなあそびが見つかり「楽しいな」「面白いな」等の気持ちを大人と共感していきながら、大人への要求が増え、繰り返し活動を楽しめるようになる。

カリキュラム

	項目	あそび	場所
月	目的のあるあそび やりとりあそび	リズム遊び・簡単なルール 相手や物の動きに合わせる運 動遊び	うさぎ
火	つもり・見立てあそび	ごっこあそび・製作	うさぎ
木	やりとりあそび 園庭遊び・園外活動	他者を意識したあそび 外遊び・散歩	ホール 園庭・園外
金	感覚運動あそび	サーキット・揺れあそび等	プレイルーム

メンバー 令和6年 4月2日現在

氏名	性別	CA
	男	5:7
	男	5:6
	女	4:10
	男	4:10
	男	3:9
	男	3:1
	男	2:11
	男	3:0

時間	内容
13:20	あつまり パネルシアター、手遊び、 歌等
13:30	カリキュラムによるあそ び
14:10	あつまり あいさつ

遊戯アザラシグループ

担当：大中保育士・石丸児童指導員

目指す子どもの姿

大人が媒介となりながら、設定遊びの中でお友だちと一緒に遊ぶことが増える。また、言葉でのコミュニケーションや、言葉のみに限られないコミュニケーション手段が増える。

（健康・生活）

感覚運動遊びを通して、身体の使い方を知り、食事や排せつなど生活の中での出来ることが増える。

（運動・感覚）

様々な運動遊びを経験する中で、動きを調節したり、相手に動きを合わせることが出来るようになる。また、製作活動を通して、様々なイメージした物を作り上げながら象徴機能を養う。

（認知・行動）

始点・終点を分かりやすくすることで、主体的に活動し、繰り返し遊ぶことが出来るようになる。また、手遊び・リズム遊びなどを通して、大人やお友だちに興味を持って注目し、模倣することが増える。

（言語・コミュニケーション）

絵本を通して大人やお友だちと一緒に簡単なやりとりのある言葉や掛け合いを楽しむ。また、手掛かりを用意することで、ごっこ遊びのイメージが広がり、お友だちと一緒に遊ぶ面白さに気付くことが出来る。

（人間関係・社会性）

要求や気持ちを大人が代弁したり、一緒に伝えることで、子ども同士のやりとりに繋げていく。また、本人なりの表現方法で伝えようとするが増える。

カリキュラム

	項目	あそび	場所
月	ルールのある遊び	ルールや役割のあるあそび	こじか
火	表現・目的あそび	人や物に合わせる活動	こじか
木	感覚運動遊び	サーキット・揺れ遊び等	ブレイルーム
金	手先を使った遊び	概念理解が広がるあそび・製作	こじか

メンバー 年齢：令和6年4月2日現在

氏名	性別	CA
	男	5:11
	女	5:09
	男	5:03
	男	5:03
	女	5:02
	男	4:09
	男	4:06
	男	4:05

時間	内容
13:20	あつまり ごあいさつ・出席確認 今月の歌
13:30	カリキュラムによるあそび
14:00	片付け 絵本
14:10	あつまり 今日の振り返り

言語クジラ

担当 上甲児童指導員・上田保育士

目指す子どもの姿

大人が媒介となりながら、あそびの中で、子ども同士で誘い合ったり、自分の思いを伝え合ったりする経験を通し、集団で遊ぶことの楽しさを知り、「子ども主体のあそび」が広がる。また、他者の思いを理解する力が身に付くことで、共感したり我慢したりすることができるようになり、それにより楽しく遊べるという経験を重ねていく。

(健康・生活)

遊びだけではなく絵本等から、衣食住に意識が向けられるようになり、実践することで、健やかな生活に繋がられる。

(運動・感覚)

運動遊びの中に、動きをコントロールする要素や、他者と一緒に取り組む活動を取り入れることで、人や物に合わせた動きができるようになる。また、巧緻性の運動機能を高め、道具の使用がスムーズになる。

(認知・行動)

簡単な約束事やルールを守りながら遊べるようになる。また、その中で、集団に適應する力を身に付ける。

(言語・コミュニケーション)

個々に合ったコミュニケーション手段を獲得し、自分の思いを伝える力を身に付ける。また、他者とのやり取りを通して、相手の話を聞く姿勢を身に付ける。

(人間関係・社会性)

園外活動を通して、公共でのマナーやルール、ふるまい方を知り、家庭生活でも活かされるようになる。また、大人が媒介となりながら他者理解を深める。

カリキュラム

	項目	あそび	場所
月	ルール・ゲームあそび	ルールや役割のあるあそび 概念理解が広がるあそび	きりん
火	感覚運動遊び 園外活動	人や物に合わせる活動 散歩や買い物等	きりん
木	みだて・つもりあそび	ごっこあそび・製作	きりん
金	表現・目的あそび	言語あそび・リトミック ダンス・楽器あそび等	きりん

メンバー

年齢 令和6年4月2日現在

氏名	性別	CA
	男	5:10
	男	5:6
	男	5:6
	男	5:5
	男	5:4
	男	4:10
	女	4:4
	男	3:11

時間	内容
13:20	あつまり ごあいさつ・出席確認 今月の歌
13:30	カリキュラムによるあそび
14:00	片付け 絵本
14:10	あつまり 今日の振り返り